

第2回赤ちゃん協議会(R4.11.24) 開催結果概要

- 産科医ワーキンググループ及び病院長・大学ワーキンググループの検討内容に加え、妊産婦を支える自治体の取組みについて、報告があった。
- それら報告の内容を踏まえた「赤ちゃん協議会での中間とりまとめ(案)」が提案され、意見交換が行われた。意見交換の概要は下記の通り。

【主な意見】

- 大学としては、医師の養成に引き続き取り組んでいくとともに、産科医が不足している地域・病院への医師派遣を通じて、地域医療に貢献していきたい。
(関連発言)「全力を挙げて能登地区の医療を支援したい」
「県の産婦人科診療や、人材育成に貢献していきたい」
- 大学と連携し、県立中央病院で症例を積んだ医師が、能登や加賀で医療に従事する医師の養成・派遣の循環型サイクルの構築に向け、取り組んでいきたい。
(関連発言)「県立中央病院としては、総合周産期母子医療センターを守り抜くことを使命とし、両大学とともに若手の産科医の育成に取り組んでいきたい」
「長期的には循環型サイクルをどうするか、関係機関、県の協力のもと、進める必要がある」
「医師の派遣は継続性が重要である」
- 市町としても、地域の妊産婦を守るとともに、その不安解消につながる取組みの充実を図るなど、自治体としての役割を果たしていく。
(関連発言)「妊娠中の面接や訪問、アプリによる情報発信など、引き続き、妊娠期からの支援強化に取り組みたい」
「市と病院、消防が連携した救急搬送の仕組みを構築し、妊婦の不安解消を図りたい」

【今後の予定】

第2回赤ちゃん協議会における各ワーキンググループからの報告や、意見交換の内容も含め、協議会座長にて、中間とりまとめを行い、後日、知事に報告することとなった。